

# ユニセフ T・NET 通信

2014 SPRING

No. 57

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ http://www.unicef.or.jp

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

## 南アジアの教育の状況について

**国** 連ミレニアム開発目標 (MDGs) の到達年を来年 (2015年) にひかえ、その成果文章の作成に向けて忙しくする今日この頃です。T・NET通信の前号 (第56号) でも、MDGsの開発目標4に関して特集が組まれました。このMDGsの達成の進捗について、達成が滞っている地域として、サハラ砂漠以南の国々と南アジア地域が挙げられます。しかし、南アジアの状況が扱われることは、あまり多くありません。世界でも有数の人口を抱える地域の状況の良し悪しは、地球的な影響に繋がります。実際はどうなのでしょう。本稿では南アジアの状況を、主要な4カ国の教育的状況から取り上げてみたいと思います。

【図1】MDGsの到達度状況

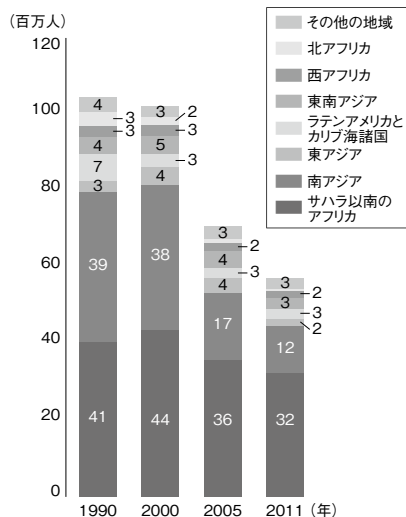
目標	アフリカ		アジア				オセアニア	ラテンアメリカ カリブ	中央アジア・ コーカサス
	北	サブ・サハラ	東	東南	南	西			
<b>目標2：初等教育の完全普及の達成</b>									
初等教育の完全普及	高普及	中	高	高	高	高	—	高	高
<b>目標3：ジェンダー平等推進と女性の地位向上</b>									
初等教育における女性の就学率	同等に近い	同等に近い	同等に近い	同等	同等	同等に近い	同等に近い	同等	同等
女性賃金労働者の割合	低	中	高	中	低	低	中	高	高
国会における女性議員の割合	低	中	中	低	低	低	とても低い	中	低
<b>目標4：乳幼児死亡率の削減</b>									
5才以下死亡率 2/3削減	低死亡率	高	低	低	中	低	中	低	中

■ 目標達成済み、または、2015年までの目標達成が見込まれる。 ■ 進展なし、または、悪化。  
■ 現状のままでは2015年には目標達成不可能。 — データが不十分。

### 南アジアの努力

南アジアは他の開発途上地域と比べると、教育状況等を示す数値がとて大きいので、状況が悪く見えます (【図2】参照)。

【図2】小学校へ通っていない子どもの数



例えば、学校に通っていない子どもの数値を見ると、人口の多い分だけ、改善がなされていないように見えるのです。しかし、実際は大きく改善をしています。例えば、南アジアの小学校への就学率は2000年の78%から2011年の93%と大きく飛躍しています。世界の学校に通っていない子どもの数が

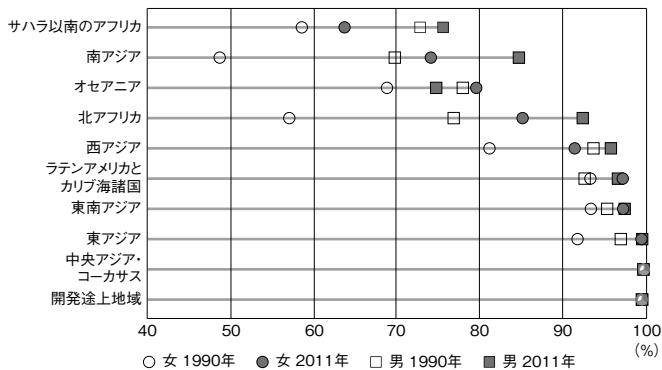
およそ半分近く減ったのは、この地域の改善が大きく関係しているのです。2000年には世界では1億人を超える子どもたちが学校に通っていませんでしたが、2011年にその数は5,700万人まで減少をしているのです (【図2】参照)。

### 男女格差

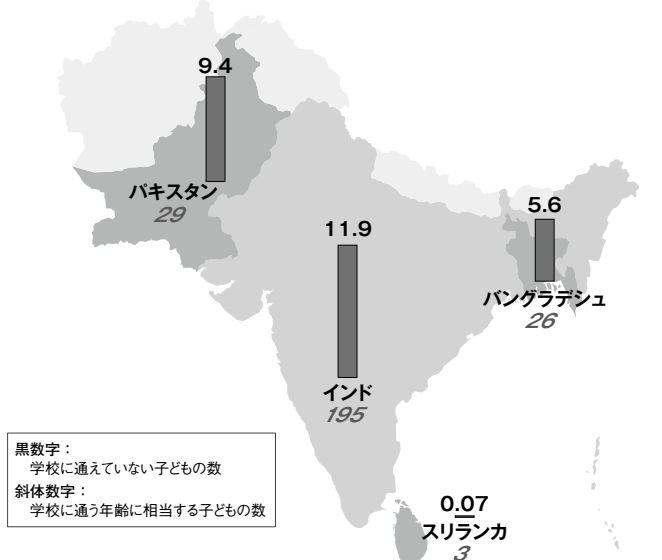
こうした改善の陰で、気をつけなくてはならないのは男女格差の問題です。小学校に入った子どもは学校に通い、修了すると、筆記能力や数的能力が身につきます。世界では、2011年に小学校の1年生になった、1億3,700万人の子どもたちの内、3,400万人が卒業する前に学校をやめると推定されています。これは25%の子どもたちが小学校を卒業せずにやめることになります。この割合は2000年の状況と全く変わっていません。南アジアでは3分の1の子どもが小学校を卒業する前に学校をやめています。この結果は若者の識字率に顕著にあらわれています。南アジアの若者の識字率を見てみると、1990年から2011年にかけて大きく改善しています。特に女性の識字率は50%未満から70%以上と大きく飛躍しています。しかし、男女差を比べると、2011年現在の女性の識字率は男性のそれよりも10%程度

いまとなっているのです(【図3】参照)。これは学校に通えない状況に大きく関係しています。その様子を、南アジアの4つの主要な国(インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ)の様子から探ってみます。【図4】にあるように多くの子どもたちが学校に通えていないままです。

【図3】若者の識字率



【図4】主要4カ国の学校に通えていない子どもの数(百万人)



### 子どもたちが学校に通えない事情

これらの南アジアの主要4カ国では飛躍的に子どもの教育の状況が改善してきています。しかし、数百万人の子どもたちが学校に通えていないのも、まぎれもない事実です。この状況を調査、しっかりとした事実に基づいた分析をし、そうした根拠から学校に通えていない子どもたちが、どうしたら通えるようになるか提言できるようになります。まず、通学ができていない状況をみてみます。

#### 経済的事情:

いずれの4カ国においても、低所得の家庭と学校の未就学状況は密接に関係しています。

#### 性差による事情:

中等教育に関しては貧しい家庭で、女の子の通学状況に大きな影響が出ています。パキスタンでは基礎教育の段階で女の子の就学率が低くなっています。インドの農村部では、女の子は、男の子ほど中学校には通えていません。また、インドの指定カースト

トの女の子が学校に通えない状況となっています。

#### 都市部もしくは農村部の事情:

この4カ国のどこでも都市のスラム街と辺鄙な農村の子どもたちの就学率が低くなっています。バングラデシュの大会都のスラム街では国平均の2.5倍の悪さで通学できていません。インドではスラム街の子どもとストリート・チルドレンが集中して学校に行けない状況となっています。

#### 民族的事情:

インドではイスラム教徒の子どもたちや社会的に差別を受ける部族の年齢が高い子どもたちが就学できない状況が目立っています。指定カーストの子どもと指定部族の小学校に通えない割合は5.6%と5.3%となり、国平均の3.6%より高くなっています。特に、指定カーストの女の子の就学状況は厳しく、6.1%が学校に通えていません。また、少数民族の言葉を母語とする子どもたちの就学状況の厳しさも顕著となっています。例えば、バングラデシュでは、少数民族が暮らすチッタゴン丘陵では就学率が低くなっています。

#### 児童労働:

4カ国の児童労働の割合は、スリランカで3%、バングラデシュで9%、インドで12%、パキスタンで16%と推定されています。この児童労働の状態にある子どもは他の子どもたちより通学する割合が低くなっています。パキスタンでは児童労働による影響が顕著で、児童労働に従事する子どもたちの90%以上が学校に通えていません。

#### 障がいのある子どもたち:

通学できない障がいのある子どもたちの割合が高くなっています。インドでは障がいのある6歳から13歳の子どもたちの38%が学校に通うことができずにいます。

#### 緊急事態という事情:

緊急事態により子どもたちの日常生活は影響を受けます。スリランカ北部の紛争地域の子どものうち、特に中学生の子どもたちの就学率は低くなっていました。そして、2007年と2009年にバングラデシュを襲った台風の影響で150万人の子どもたちが通学できなくなりました。パキスタンでもスワット渓谷での暴動を避け、他の地に移動した結果、通学ができなくなりました。

### 子どもたちが通学できるようになるために

こうした南アジア地域の国の通学できない子どもたちには、きちんとしたデータをとることが必要です。そしてその状況分析に基づき、どのような障害があるのか、現状の教育政策の中で、こういった欠陥があり、子どもたちを通学させられないのかを調べ、是正をしていく必要があるのです。公平性に基づいた一日でも早い支援が必要とされています。

#### 【出典】

- 図1: United Nations: "Millennium Development Goals: 2013 Progress Chart"(英語)より翻訳,作成
- 図2,3: United Nations: "The Millennium Development Goals Report 2013"(英語)より翻訳,作成
- 図4: UNESCO, UNICEF "ALL CHILDREN IN SCHOOL BY 2015, Global Initiative on Out-of-School Children-SOUTH ASIA REGIONAL STUDY, Covering Bangladesh, India, Pakistan and Sri Lanka"(英語)より翻訳,作成